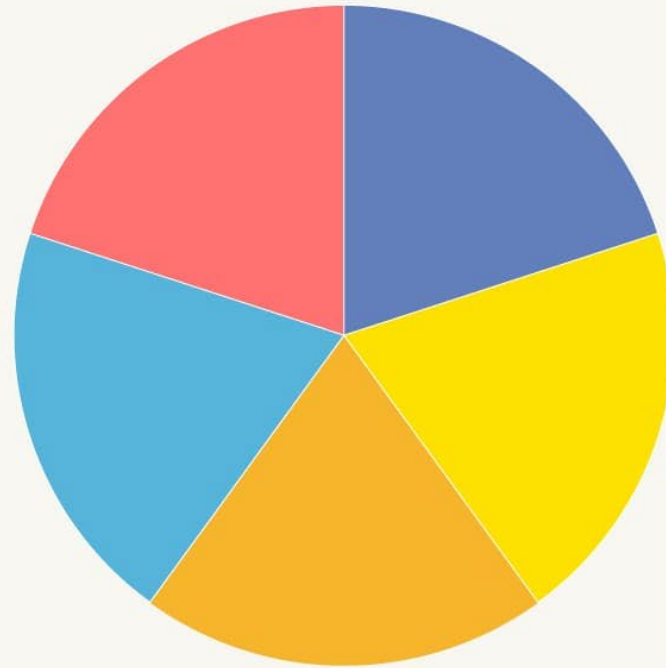


何が理解でき、どのように活用できるのか？

ビッグファイブ



- 誠実特性
- 調和特性
- 開放特性
- 外向特性
- 情緒特性

情緒特性



ビッグファイブ理論の特性5因子の情緒特性とは？
概要や特徴についてまとめて解説

ビッグファイブ理論の「情緒特性」とは

情緒特性は、**ストレス耐性やメンタル傾向を表す因子**です。情緒特性を見ることで、ネガティブな状況に対する反応を知ることができます。

そのため、自分や対象者の情緒特性を知ることによって、プレッシャーがかかる仕事や不安を感じるような出来事に遭遇した場合に、どのような反応を起こすか予測可能です。

また情緒特性が低いと、プレッシャーに強く、高いと繊細で感受性が高い傾向があります。

日本人の美点として、優しい、真面目、几帳面、綺麗好きといったキーワードが挙げられることが多いです。更に、新しいものを生み出すよりも既存のものを改善することが得意なことから、日本人は情緒特性が高い民族だといわれています。

情緒特性が高い人の特徴

情緒特性が高い人は、人よりも感受性が高いことから、周囲の人の感情や空気を読むのが得意で、洞察力が高いのが特徴です。また、繊細さも合わせ持つことから、芸術肌な一面も持ち合わせています。

その一方で、ネガティブな出来事に反応しやすく、ストレスを感じやすい傾向があります。それゆえ、思った通りに物事が進まない、イライラしたり、パニックになってしまいがちなため注意が必要です。

情緒特性が高い人が活躍できるポジション

上記のような特徴から、情緒特性の高い人は危険を回避する力が強く働くため事前に問題を考え、未来のリスクに備えておく危機管理能力が高いです。そのため、問題点や欠陥を改善するような仕事、綿密な用意や準備が必要な仕事で活躍が期待できます。

また、高い感受性を活かして、クリエイティブな職種もいいでしょう。外的環境によってメンタルが左右されやすい傾向があるため、落ち着いて仕事ができる環境でより力を発揮できます。

情緒特性が高い人に向いている仕事

問題解決

- スケジュールや工程管理
- ノルマの無い仕事等

情緒特性が高い人×他の因子

ここでは他の因子（誠実特性・開放特性・調和特性・外向特性）との関係性から情緒特性の高い人の特徴を解説します。
 このように他の因子と組み合わせることで、より深く、自分の性格や対象者の性格が理解できます。

誠実特性	高い	几帳面で、細かなところまで気がつく人
	低い	きちんと自分の意見を主張でき、行動できる人
開放特性	高い	情熱的で、感情的な人
	低い	不測の事態に備えて、準備を整えることができる人
調和特性	高い	情にもろく、優しい人
	低い	先手、先手で仕事を進めることができる人
外向特性	高い	新しいことにどんどん挑戦する人
	低い	何事に対しても用心深く、慎重に行動する人

情緒特性が低い人の特徴

情緒特性が低い人は、**ストレス耐性が高く、物事に動じない傾向**があります。また温厚であまり怒ったりしない人です。プレッシャーにも強いいため、予期しないようなことが起こっても、落ち着いて冷静に対処できます。

その一方で、**周囲の変化に鈍感になりがち**なため、問題や危険に気付くのが遅いところがあります。また、リスクに対して、楽観的に捉え、リスクを顧みずに大胆に行動をしてしまうこともあるため、その点は注意が必要です。

情緒特性が低い人が活躍できるポジション

上記の特徴から、**情緒特性性が低い人は立ち上げ部署や新規性のスタートアップなど、リスクを顧みずに大胆な決断や行動が求められるような環境で活躍できるでしょう。**

また、ノルマや納期や締め切りが厳しい仕事など、プレッシャーがかかる仕事なども向いているといえるでしょう。

情緒特性が低い人に向いている仕事

ハードワーク、厳しい現場系の仕事

- 建設土木関係
- 営業
- コールセンター等

情緒特性が低い人×他の因子

ここでは他の因子（誠実特性・開放特性・調和特性・外向特性）との関係性から情緒特性の低い人の特徴を解説します。
 このように他の因子と組み合わせることで、より深く、自分の性格や対象者の性格が理解できます。

誠実特性	高い	手落ちや抜かりがなく、何事もそつなくこなす人
	低い	形式張らず、控えめな人
開放特性	高い	知的で、洞察力のある人
	低い	冷静沈着で、物おじしない人
調和特性	高い	いつも笑顔で情緒も安定していて穏やかな人
	低い	情に流されずに、冷静に判断できる人
外向特性	高い	自分に自信がありどんな場面でも大胆に行動できる人
	低い	物静かで、落ち着いた人

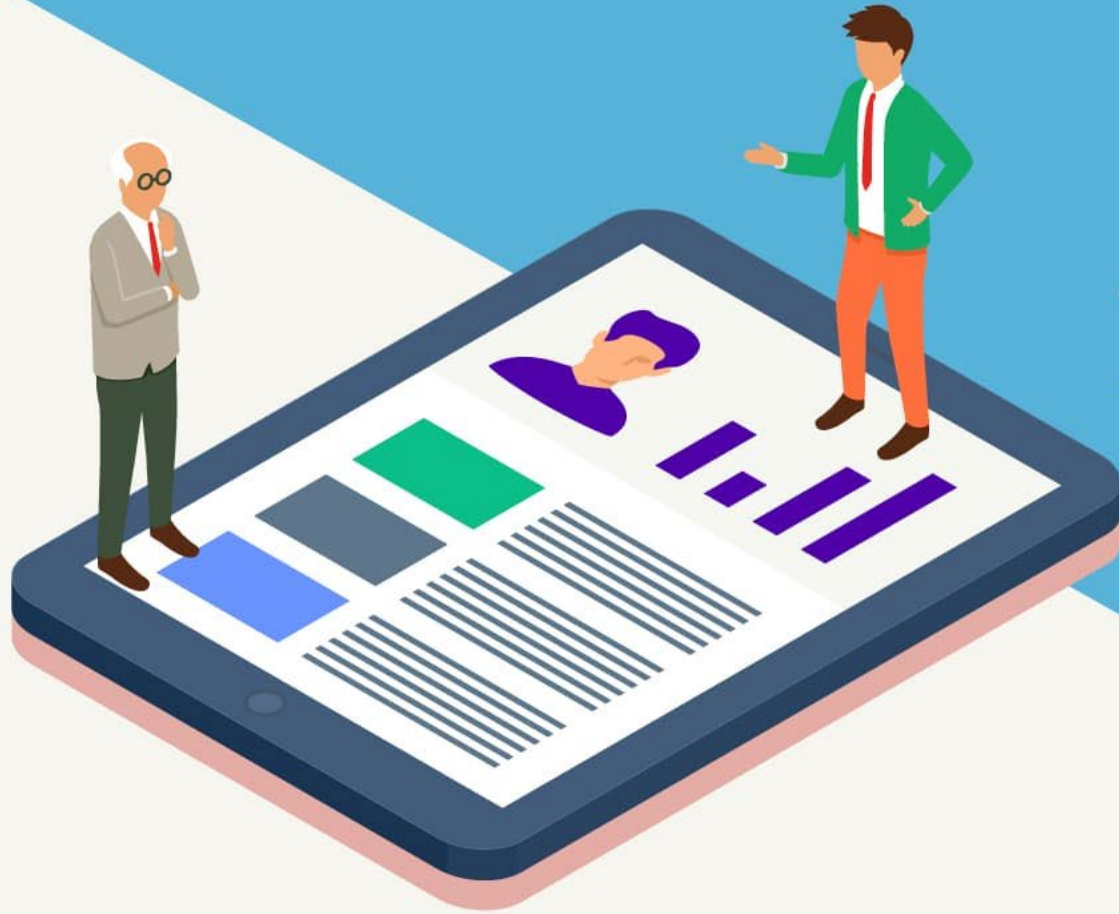
ストレスに強い人材が良い人材とは限らない

情緒特性は、ストレス体質をみる因子と考えられてきました。そのため、情緒特性が低い人材は、ストレスに強い人材=良い人材と考えられてきました。

しかしながら、情緒特性が高い場合、危険察知能力が高いため、細かい部分に気がつくという特性があります。そのため、細部にわたってチェックができ、細かく指示を出すことが可能です。それゆえ、マニュアルやルールブック通りに業務を遂行できます。

一方で、情緒特性が低い場合、危険察知能力が低いため、細かい部分に気がつくことができずに、マニュアルやルールブック通りに業務を遂行することが苦手です。

このように情緒特性は、ネガティブなことに対する反応だけを見るのではなく、ネガティブなことに対する反応の違いによる特性の違いにまで着目しましょう。



外向特性

ビッグファイブ理論の特性5因子の外向特性とは？
概要や特徴についてまとめて解説

ビッグファイブ理論の「外向特性」とは

外向特性はコミュニケーションや、新しい人との出会いなどにポジティブなことに対して、どのような反応をするかを示す因子です。外向特性の高さは社会とのコミュニケーション量にも比例し、環境の変化への順応力の高さにも関係します。

そのため、外向特性が高いほど、積極的に多くの人と関わり、環境の変化にも柔軟に対応できます。その一方で、外向特性が低い場合、人見知りのケースが多いといわれています。

このように、コミュニケーションや興味関心に関する特質を知りたい場合は、外向性に注目するといいでしょう。

外向特性が高い人の特徴

外向特性が高い人は、思い立ったらすぐ行動してしまう活発的な人です。そのため、忙しい状態を好み、刺激を求める傾向があります。更に新しい出会いを好むため、初対面の人に対しても自分から積極的にコミュニケーションを取ろうとします。

自己主張が強く自分の意見を述べたり、大勢の前で話しをしたりすることも得意です。また、野心的な一面もあるため、高い報酬やステータスを手に入れるための努力を惜しみません。

その一方で、ルーティンが続く刺激のない環境に対して、退屈に感じてしまうことも多いでしょう。

外向特性が高い人が活躍できるポジション

上記の特徴から、外向特性が高い人はデスクワークよりも、移動が多く活動的な業務で活躍する可能性が高いです。

また、多くの人とのコミュニケーションを取ることも苦にならず、挑戦することを好むため、社内外問わず、多くの人と関わるような業務が向いているでしょう。また、相手の懐に入るのが上手いので、営業職やセミナー講師がおすすです。

外向特性が高い人に向いている仕事

販売業

- 営業
- ノルマがあり

自身の成果が可視化されるような仕事等

外向特性が高い人×他の因子

ここでは他の因子（誠実特性・開放特性・調和特性・情緒特性）との関係性から情緒特性の高い人の特徴を解説します。
 このように他の因子と組み合わせることで、より深く、自分の性格や対象者の性格が理解できます。

誠実特性	高い	野心的で、競争を好む人
	低い	明るくて人当たりも良く、社交的な人
開放特性	高い	雄弁で、熱い人
	低い	突発的になトラブルに強い人
調和特性	高い	話好きで、人との交流と楽しむ人
	低い	自分の意見や考えを持ち、周囲に流されずに行動できる人
情緒特性	高い	新しいことにどんどん挑戦する人
	低い	自分に自信があり、どんな場面でも大胆に行動できる人

外向特性が低い人の特徴

外向特性が低い人は、ゆったりとしたペースでのんびり過ごすことを好みます。平穩を求める傾向があるため刺激よりも、安全な環境を望みます。控えめな性格のため、自分の意見を主張することなく、聞き手に回ることが多いでしょう。

人見知りの傾向が強く、自分から積極的に初対面の人に話しかけることが苦手です。そのため他人と打ち解けるまでに時間がかかります。

その一方で、好きなことや興味があることに対しては、積極的に取り組み、追求する特徴があります。

外向特性が低い人が活躍できるポジション

上記の特徴から、一人でコツコツと作業に没頭したり、デスクワーク全般や、好きなことを突き詰めていくことができる専門職に向いています。

好きなことや、興味があることに対しては、積極的に取り組むため、ゼネラリストよりもスペシャリストを目指せる環境で活躍できる人材です。

外向特性が低い人に向いている仕事

職人のような専門職

- デスクワーク全般
- エンジニア等

外向特性が低い人×他の因子

ここでは他の因子（誠実特性・開放特性・調和特性・情緒特性）との関係性から情緒特性の低い人の特徴を解説します。
 このように他の因子と組み合わせることで、より深く、自分の性格や対象者の性格が理解できます。

誠実特性	高い	用心深く、リスク管理に長けている人
	低い	物事を慎重に判断する人
開放特性	高い	内省的で、思慮深い人
	低い	その場に合わせることができる人
調和特性	高い	他人に対して気配りができ、情け深い人
	低い	無口で、自分の世界を持っている人
情緒特性	高い	何事に対しても用心深く、慎重に行動する人
	低い	物静かで、落ち着いた人

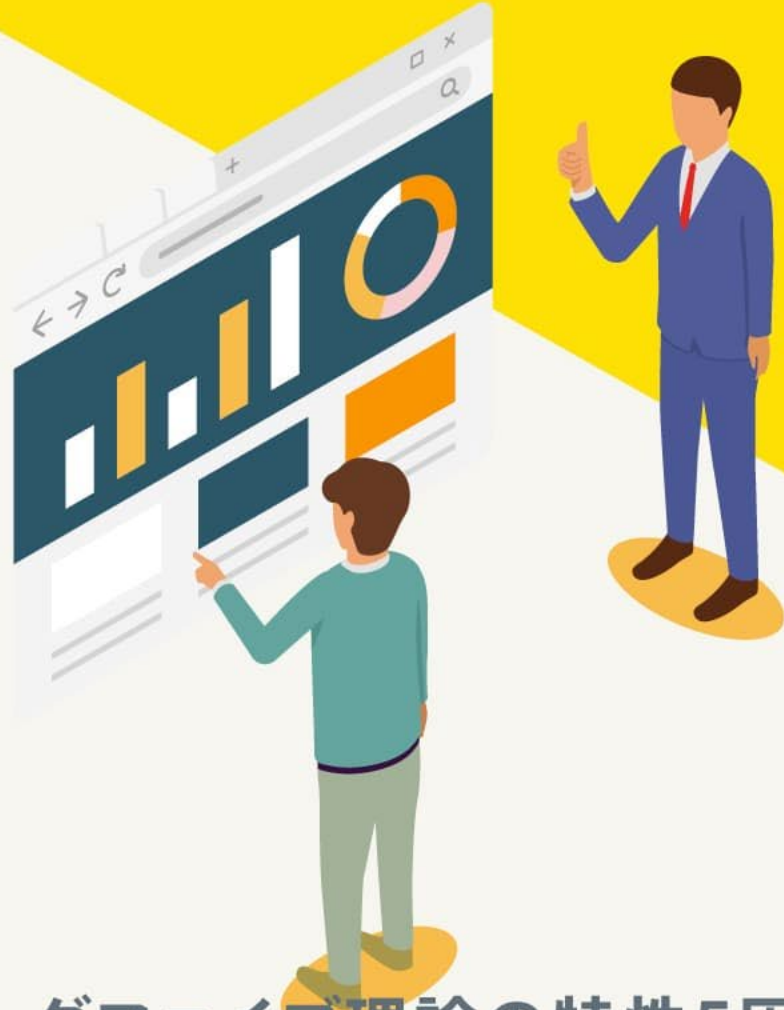
外向特性をみて、ポジションを決める

外向特性が高い場合、外部とのコミュニケーションに強く、目標に対して積極的に取り組み、野心的です。また、新しい人に会うことに対して苦になりません。一方で、低い人は人見知りの傾向が高く、新しいことに会う刺激よりも安全な環境を好みます。

それゆえ、外向特性が低い人を、新規営業のポジションに配置してしまうと、負荷がかかってしまいパフォーマンスが下がってしまいます。

事実、とある外資系企業では、外向特性の高い人を営業の最前線に、低い人をデスクワークに配置することで成果をあげているそうです。

このように外向特性に合わないポジションに配置してしまうと、パフォーマンスの低下を招いてしまう可能性があります。そのため、人事配置の際には、対象者の外向特性に配慮して実施するといいでしょう。



調和特性

ビッグファイブ理論の特性5因子の調和特性とは？
概要や特徴についてまとめて解説

ビッグファイブ理論の「調和特性」とは

調和特性はチーム内でどのようなポジションで行動するかを示す因子です。調和特性が高いと周りとは歩調を合わせて行動し、低いと自分の判断で行動する傾向があります。

また、共感能力の指標にもなるため、調和特性が高いほど他者に対して共感してしまう傾向が高く、低いほど、他社の意見に左右されず、独断的な傾向が高くなります。

このように調和特性は、協調性や共感力、他者との関係でどのようなポジションに立ちやすいかをみるための指標として役に立ちます。

調和特性が高い人の特徴

調和特性が高い人は人を喜ばせたり、人に尽くす事を好み、自分の成功よりも、他人の成功のために尽力します。

共感力が高く、人の気持ちに寄り添うことが得意なため、周囲からは面倒見の良い人だと思われるでしょう。このように調和特性が高い人は人からの信頼を作ることに長けています。

また人と対立することを嫌い、円滑に進めるためなら、妥協をしたり、我慢したりと自分を抑えてしまうことがあります。そのため、自己犠牲的にならないように注意が必要です。

調和特性が高い人が活躍できるポジション

上記の特徴から、調和特性が高い人はチームワークが重要な業務や、人との関係構築が必要な業務で力を発揮します。

また、サービス業、看護師、カウンセラーといった他人に寄り添い助ける仕事が向いています。

調和特性が高い人に向いている仕事

サービス業

- 看護師
- カウンセラー
- コミュニケーションが重要な仕事等

調和特性が高い人×他の因子

ここでは他の因子（誠実特性・開放特性・外向特性・情緒特性）との関係性から情緒特性の高い人の特徴を解説します。
 このように他の因子と組み合わせることで、より深く、自分の性格や対象者の性格が理解できます。

誠実特性	高い	思いやりがあり、責任感が高く周囲から頼られる人
	低い	常に控えめな態度で謙虚な人
開放特性	高い	周囲に対して気が利き、愛想の良い人
	低い	素直で、人懐っこい人
外向特性	高い	話好きで、人との交流を楽しむ人
	低い	他人に対して気配りができ、情け深い人
情緒特性	高い	情にもろく、優しい人
	低い	いつも笑顔で情緒も安定していて、穏やかな人

調和特性が低い人の特徴

調和特性が低い人は、論理的に物事を考え、他人の意見に振り回されることなく、決断する能力を持っています。他人の意見に合わせるよりも、意見をぶつけ合って議論することを好むでしょう。

人のために時間を使うよりも、自分のことをしたいと考えています。また、他人に依存することなく自分一人で行動できるため、周囲からは一匹狼的な人だと思われてしまいがちです。

そのためチームや組織で仕事に取り組む場合、孤立してしまわないように注意が必要です。

調和特性が低い人が活躍できるポジション

上記の特徴から、調和特性が低い人は、情に流されず、競争力もあるため、厳しい環境に耐え抜く力と決断力を必要とする立場や仕事に向いています。また、論理的思考が得意で、問題解決能力も高いです。

これらの理由から、経営者や管理職、システム構築などの業務で活躍できるでしょう。

調和特性が低い人に向いている仕事

経営者

- 管理職
- 政治家
- ライン作業など一人でできる仕事等

調和特性が低い人×他の因子

ここでは他の因子（誠実特性・開放特性・外向特性・情緒特性）との関係性から情緒特性の低い人の特徴を解説します。
 このように他の因子と組み合わせることで、より深く、自分の性格や対象者の性格が理解できます。

誠実特性	高い	自分に厳しく、ストイックなところがある人
	低い	疑り深く、単独行動を好む人
開放特性	高い	個人主義で、抜け目がない人
	低い	安定した環境を好む人
外向特性	高い	自分の意見や考えを持ち、周囲に流されずに行動できる人
	低い	無口で、自分の世界を持っている人
情緒特性	高い	先手、先手で仕事を進めることができる人
	低い	情に流されずに、冷静に判断できる人

調和特性が高い＝良いではない

調和特性が高い場合、相手と同じ反応を無意識にでき、周囲と合わせることができる人です。そのため、日本の組織では調和特性が高い人ほど、出世できる可能性があります。

それゆえ、調和特性が低いことは悪いと捉えがちです。しかしながら調和特性が低いということは、カリスマ性を有し、論理的かつ、合理的な思考ができるということです。しかし業務内容や環境によっては、調和特性が高い人よりも、低い人の方が良いケースがあります。

つまり、チームワークが求められる環境では、調和特性が高い人の方が力を発揮でき、一方で個人単位でプロジェクトや目標に取り組む環境では、調和特性が低い人の方が力を発揮できます。

このように調和特性の高い、低いは、良い、悪いではなく、得意な環境と不得意な環境を示すものだと捉えるといいでしょう。



開放特性

ビッグファイブ理論の特性5因子の開放特性とは？
概要や特徴についてまとめて解説

ビッグファイブ理論の「開放特性」とは

開放特性は、新しい経験に対する反応を示す因子です。チャレンジ力とも読み替えることができます。

そのため、開放特性が高いほど、新しいことに対して、果敢に取り組み、未知なる環境を好みます。一方で、開放性が低い場合、安定志向で、保守的な側面が現れやすいといわれています。

さらに開放特性は感受性を示す因子でもあるため、開放特性が高いほど、創造性が高く、芸術的なものへの関心が強くなります。

開放特性が高い人の特徴

開放特性が高い人は、芸術的なものに対する興味関心が高く、創造的経験を常に求めています。そのため芸術家タイプの人が多いです。新しい考え方に対しても、心がオープンなため積極的に取り入れる傾向があります。

また、自分の感情を自覚していて、感情表現も豊かなため、周囲の人に対して自分の気持ちや感情を伝えるのが得意です。

その一方で、変化を好む傾向があるため、ルールに縛られたり、ルーティーンワークが求められたりする環境が苦手です。

開放特性が高い人が活躍できるポジション

上記の特徴から、開放特性が高い人は新しいことに挑戦できるような環境で活躍できる可能性が高いです。また独創的な考えが求められるようなコンサルタント広告業、研究開発職などの業務が向いています。

開放特性が高い人に向いている仕事

コンサル業

- 開発系の仕事
- アーティスト
- 新規事業の立ち上げ
- 研究職
- クリエイター等

開放特性が高い人×他の因子

ここでは他の因子（調和特性・誠実特性・外向特性・情緒特性）との関係性から情緒特性の高い人の特徴を解説します。
 このように他の因子と組み合わせることで、より深く、自分の性格や対象者の性格が理解できます。

調和特性	高い	周囲に対して気が利き、愛想のいい人
	低い	個人主義で、抜け目がない人
誠実特性	高い	勤勉で、洗練された人
	低い	自由な発想でアイデアを膨らませていくのが得意な人
外向特性	高い	雄弁で、熱い人
	低い	内省的で、思慮深い人
情緒特性	高い	情熱的で、感情的な人
	低い	知的で、洞察力のある人

開放特性が低い人の特徴

開放特性が低い人は、安定志向で保守的な傾向が高いです。そのため、新しい経験よりも、ルーチンワークを好み、自分のペースを乱されることを嫌います。

また、地に足がついた考え方ができるため、無謀なことにチャレンジすることなく、着実に成果が出る行動をとります。

その一方で、伝統に従って安定を維持することを好むため、変化が求められるような環境が苦手です。また自分の感情を表に出さないため、周囲からは冷静沈着な人だと思われることも多いでしょう。

開放特性が低い人が活躍できるポジション

上記の特徴から、開放特性が低い人は、既存事業を安定させたり、ルーチンワークを求められったりする環境で活躍できる可能性が高いでしょう。

そのため、クリエイティブさが求められない、現実的な仕事に向いています。

開放特性が低い人に向いている仕事

製造関係

- 既存事業の安定化
- 事務職
- 品質管理
- ルールに則った仕事等

開放特性が低い人×他の因子

ここでは他の因子（調和特性・誠実特性・外向特性・情緒特性）との関係性から情緒特性の低い人の特徴を解説します。
 このように他の因子と組み合わせることで、より深く、自分の性格や対象者の性格が理解できます。

調和特性	高い	素直で、人懐っこい人
	低い	安定した環境を好む人
誠実特性	高い	伝統や慣習を守る保守的な人
	低い	思いついたことを即行動できる人
外向特性	高い	突発的なトラブルに強い人
	低い	その場に合わせることができる人
情緒特性	高い	不測の事態に備えて、準備を整えることができる人
	低い	冷静沈着で、物おじしない人

開放特性は変化しない気質

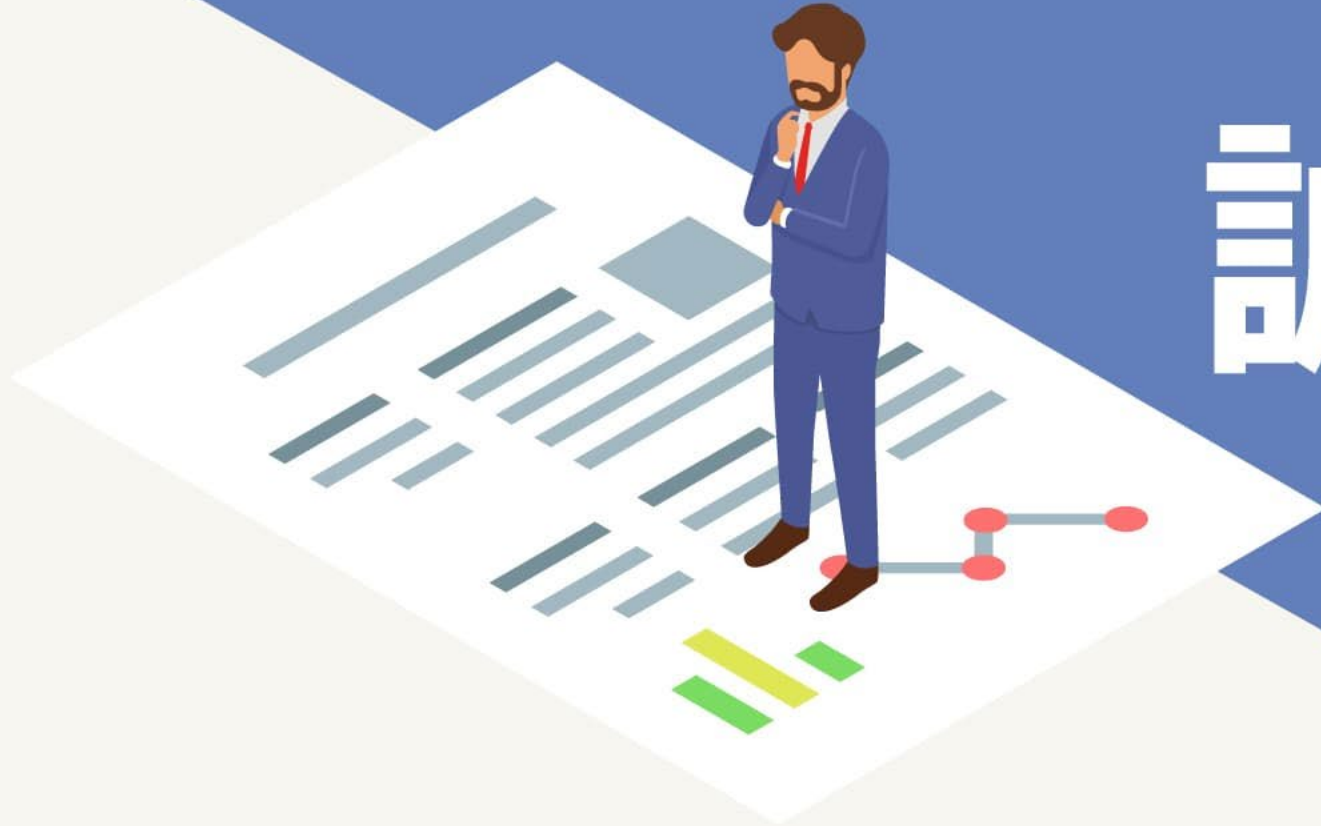
開放特性が高い場合、目新しいもの、多様性に寛容で、新しいものを常に吸収します。それゆえ変化のある環境に強く、変化のない環境では、生産性が低下してしまう傾向があります。

反対に、開放特性が低い場合、保守的で現実的な考え方をする傾向が高いです。

開放特性は、20歳までにどれだけ多くのものに触れていたかどうかで決まります。それゆえ、20歳以降に伸ばすことができない因子です。

つまり、開放特性は誠実特性のように研修などの取り組みによって高めることができません。だからこそ、開放特性の高い人は、変化のスピードが早い新規事業や研究開発を行う部署に配置するといったように、開放特性の高低差に合わせて、人事配置を行うといいでしょう。

誠実特性



ビッグファイブ理論の特性5因子の誠実特性とは？
概要や特徴についてまとめて解説

ビッグファイブ理論の「誠実特性」とは

誠実特性はセルフコントロールや責任感に関する因子で、計画的で責任感があり勤勉な性向を示します。それゆえ誠実特性では、勤勉さ、真面目さを表し、セルフコントロールの高さが分かります。

誠実特性が高いとセルフコントロール能力に長け、低いとアドリブ力が高い傾向があります。

誠実特性を見ることで、決められた目標に対する取り組み方や、「やりたい」という自分の衝動に対してどのように対応するかを判断できます。

このように誠実特性は、他の因子に比べると仕事の成果に直結しやすい因子と言えるでしょう。

誠実特性が高い人の特徴

誠実特性の高い人は、一点集中型で、はっきりした目標やゴールに向かって自らを律し、物事をやり抜ける特徴があります。また自己抑制力や集中力、さらに忍耐力や責任感が高いため、長期的な計画を立案し、遂行に向けてコツコツ努力できます。

その一方で、行動する前に注意深く考えてしまい、スタートダッシュが遅くなってしまう傾向があります。また、アドリブ力が低いため、臨機応変な対応が求められる環境や仕事が苦手です。

誠実特性が高い人が活躍できるポジション

上記のような特徴から、誠実特性が高い人はプロジェクトマネージャーや管理職といった、長期的な計画に基づいて、手順通りに遂行する必要があるポジションが向いています。

自ら取り組んだことは成功できると信じることができるのも特徴です。苦手なことに対しても、努力を惜しみません。それゆえ、誠実性が高い人は、さまざまな業種業態で活躍が期待できるといえます。

誠実特性が高い人に向いている仕事

リーダー

- 管理職
- 事務全般
- 経理や財務
- 機密情報を扱う仕事等

誠実特性が高い人×他の因子

ここでは他の因子（調和特性・開放特性・外向特性・情緒特性）との関係性から情緒特性の高い人の特徴を解説します。
 このように他の因子と組み合わせることで、より深く、自分の性格や対象者の性格が理解できます。

調和特性	高い	思いやりがあり、責任感が高く周囲から頼られる人
	低い	自分に厳しく、ストイックなところがある人
開放特性	高い	勤勉で、洗練された人
	低い	伝統や慣習を守る保守的な人
外向特性	高い	野心的で、競争を好む人
	低い	用心深く、リスク管理に長けている人
情緒特性	高い	几帳面で、細かなところまで気がつく人
	低い	手落ちや抜かりがなく、何事もそつなくこなす人

誠実特性が低い人の特徴

誠実特性が低い人は、アドリブに強く、突発的な状況にも慌てずに持ち前の行動力でカバーできる特徴があります。また、頭が良い人が多く、不測の事態にも柔軟に対応できるといわれています。

その一方で、自分の感情に素直で、自制心が低いため、困難な状況や、自分には無理だと感じると、すぐに諦めてしまうところがあります。

誠実特性が低い人が活躍できるポジション

上記の特徴から、誠実特性が低い人は、瞬間的なアドリブが必要な業務で活躍が期待できる人材です。

特に想定外のトラブルに対する対応が求められるような、経営者や専門家的ポジションが向いています。

誠実特性が低い人に向いている仕事

パフォーマー

- スポーツ選手
- 俳優
- デザイナー
- クリエイター等

誠実特性が低い人×他の因子

ここでは他の因子（調和特性・開放特性・外向特性・情緒特性）との関係性から情緒特性の低い人の特徴を解説します。
 このように他の因子と組み合わせることで、より深く、自分の性格や対象者の性格が理解できます。

調和特性	高い	常に控えめな態度で謙虚な人
	低い	疑り深く、単独行動を好む人
開放特性	高い	自由な発想でアイデアを膨らませていくのが得意な人
	低い	思いついたことを、即行動できる人
外向特性	高い	明るくて人当たりも良く、社交的な人
	低い	物事を慎重に判断する人
情緒特性	高い	きちんと自分の意見を主張でき、行動できる人
	低い	形式張らず、控えめな人

誠実特性は年齢性別問わず伸ばせる

誠実特性が高い場合、自己コントロール力や目標達成能力が高く、問題の大小問わず向き合えます。それゆえ誠実特性が高い人は組織で即戦力になる可能性が高いと考えられます。

ただし、誠実特性は年齢性別問わず伸ばせます。そのため、もし社内で誠実性が低い社員がいるのなら、計画の作り方や運用の仕方を学ばせるような研修を実施するといいいでしょう。

一方で誠実特性が低い人は、マニュアルやルール、計画がなくても行動できるため、新規事業や独立開業向きです。

このように誠実特性が高いから良い、低いから悪いというわけではありません。

そのため、採用の際には自社にとってどちらのタイプが必要か？という視点で、対象者の誠実特性をチェックするといいいでしょう。